

MAY

4-5



YMCAせとうち 西日本豪雨災害支援 2021 GWリフレッシュキャンプのご報告

【活動報告】

2018年の西日本豪雨以降、YMCAでは多くの個人、団体から支援の寄附をいただき、被災した子どもたちの心のリフレッシュを目的にキャンプをおこなってきました。しかし2020年度は新型コロナウイルスの広がりにより、9月に計画していたリフレッシュキャンプを中止せざるを得ない状況となりました。そして今年、感染対策を徹底した上で第4回目となるリフレッシュキャンプを実施することができました。

【一日目 5/4】

午前9時、岡山駅に平島小学校の子どもたち5名が集合し、バスで真備町へ。吉備真備駅前では、真備町内の子どもたち23名が集まり、これでキャンプの子どもたち全員が揃い、バスで吉備中央町の国立吉備青少年自然の家を目指しました。到着後、みんなの緊張をほぐし、グループの子どもたち同士が仲良くなるゲームをしたり、広場でお弁当を食べたりしました。

その後、各部屋へチェックインしてグループで遊ぶ時間になりました。「どこに行こうか?」「何して遊ぼうか?」とリーダーやグループのみんなで相談しましたが、この日は最高気温24℃ということもあり、どのグループも川遊びに行くことになりました。

川遊びと言ってもこの川は安全に配慮して浅く作られています。リーダーと一緒に水の中に一歩一歩入っていくと、「冷た!」と言いながらすぐに水かけ遊びが始まりました。始めは足だけ浸かって遊ぼうと思っていた子どもたちも、すぐに頭





から足の先までびしょ濡れになって遊びました。

そして着替え、夕食、その後はみんなが楽しみにしていたキャンプファイヤーで、歌ったり踊ったり、夜も楽しく過ごしました。

【2日目】

天気予報の通り、目覚めたときから外は雨でした。そこで朝のしばらくは室内でゲーム大会をして、雨でも元気に体を動かして遊びました。雨は降っていても、カッパを着れば外に遊びに行くことも出来ます。晴の人は違う、雨の森の中を歩いて散策しました。道端に生えていた葉っぱを使って、リーダーに草笛を教してもらって挑戦するこどもたちもいました。

振り返りの時間には、「キャンプファイヤーが楽しかった。」「みんなで川遊びをしたのが一番の思い出。」など、この2日間の感想を話し合いました。自分の荷物を担ぎ、雨の中をバスまで歩き、そして真備町へ、その後岡山駅へ帰りました。

【ディレクター所感】

昨年9月に計画していたリフレッシュキャンプが実施できず、1年半ぶりのリフレッシュキャンプとなりました。変異ウイルスが巷に広がり、終息どころか拡大している。YMCAではキャンプに関わる全スタッフ・リーダーのPCR検査を実施し、みんなが安心してキャンプに参加できるようにしました。

今回で4回目となるリフレッシュキャンプでしたが、これまでに何度か参加してくれたこどもたちも多く、「やあ、久しぶりだね。」「元気だった?」というやり取りが出来ることを嬉しく感じました。また、6年生が1年生を助けてあげたり、優しい声をかけてくれたり、こどもたちは自分のできることをしているだけかもしれませんが、それが誰かの喜びになったり、励ましになることもあるのだと思います。YMCAではこれからも、リフレッシュキャンプを継続していきたいと考えています。このキャンプを通し、「私にも誰かを幸せにする力がある」ということに気づく経験をして欲しいと考えています。そしてまたみなさんにお会いするのを楽しみにしています。

キャンプディレクター：白鳥雅人／プログラムディレクター：有安 紀

